

令和 6 年度

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里 (ふじ棟)		
所在地	〒023-1762 岩手県奥州市江刺藤里字平37-2		
自己評価作成日	令和6年9月20日	評価結果市町村受理日	令和7年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは『“あふれる思い”であなたに寄り添い、笑顔が喜びとなる暮らしを創造します』という理念のもと、毎月の行事や季節の行事を実施。家族との繋がりがりとして、予約制の面会・自宅への外泊を一部解除している。地域との繋がりの維持として地区の文化祭への作品展示、施設の避難訓練では地域の方に参加していただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhvu](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内へ車で10分程の豊かな自然に囲まれた場所にあつて、認知症デイサービスを併設する2ユニットの事業所である。「ありふれる想いで、あなたに寄り添う」とする法人の経営理念のもと、毎年度テーマと行動目標を見直しながら利用者への支援を実践し、本年度は利用者の隣に座って思いや要望を傾聴し、言葉の意味を深く追求することで真の思いをくみ取することを大切にしている。事業所開設当初から、入浴は金ヶ崎町の千貫石温泉のお湯を運んだ温泉浴もある。食事やおやつは職員の手作りで、栄養士の助言を得ながら栄養バランスに配慮し、季節に応じた食事や誕生日などには行事食も提供している。庭には畑や花を植え、利用者は季節ごとに思い思いに楽しんでいるほか、散歩や日常的なミニドライブ、花見や紅葉狩りなどの季節のドライブに出かけ、気分転換を図っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年12月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を各ユニット掲示し職員と共有している。利用者に寄り添い笑顔で過ごして頂くため、管理者・職員で話し合い実践している。	「明るく楽しくみんな仲良く」とする経営理念を軸に支援している。理念を職員の行動に落とし込んで利用者支援に繋げ、テーマと行動目標は毎年度見直しを行っている。今年は「職員が隣に座り過ごす」「ひとりひとりをよく知ろう」という目標を設定し、利用者から「家族のようだ」と言ってもらえている。「10の心得カード」を名札に入れて携帯し、利用者の思いに応えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	藤里地区の年間行事予定表を頂き、参加できる行事には地区センターや担当の方に連絡し参加している。今年度より、藤里振興会と福祉避難所の協定を締結した。	区長、振興会長から広報や年間自治会の行事表をいただき、参加可能な行事には参加している。地区の文化祭には作品を出品している。地区内にあった小・中学校は閉校したが、事業所に子供神楽の団体が来てくれるほか、江刺甚句祭では利用者の席を設けていただき鑑賞することも出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入社2年目の職員が、母校へ出向き仕事内容の説明会に参加し発表した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	火災や災害等の避難時、地域の消防団員の協力が必要との意見があり、避難訓練時に地元消防団の方にも参加していただいた。	運営推進委員に振興会長、区長、駐在所員、利用者や家族の代表、市役所職員を委嘱し年6回対面開催している。会議では事業所の困りごとを一緒に考え、また避難訓練に消防団員の協力が得られるよう手配していただいたり、委員から段差スロープの提供を受けている。今後の運営推進会議では「軽度認知障害」についての勉強会等を実施する予定である。	地域で暮らす高齢者支援については、民生委員や地域包括支援センターが大きな役割を担っています。新たな視点からの情報や意見を得ながら、事業所の理解者を厚くしていくためにも、民生委員や地域包括支援センターの関係者を委員に委嘱することについて検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて入居者の状況報告をしている。また、独居者で身内のいない入居者様の成年後見制度の申請について地域包括支援センター、社会福祉協議会と協議し対応している。	市の副支所長が運営推進会議に参加し、随時情報交換を行っている。生活保護受給者の支援、要介護認定申請、防災ラジオの活用等、様々な面で市の協力を得ている。地域包括支援センターとも必要の都度連絡を取り合い、良好な関係を築いている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合、身体拘束が認められる3要件について、ホーム内に掲示し職員に周知している。また、身体拘束委員会にて、定期的に研修を実施し、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束委員会を年4回、研修を年2回開催し、身体拘束をしないケアに努めている。職員には「身体拘束テスト」を定期的に行い、その内容を身体拘束のケーススタディにフィードバックしている。「身体拘束テスト」で設問の内容を具体的に書くことで、身体拘束等に対する気づきを得ることが出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内に高齢者虐待防止委員会を発足し、職員に研修を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を学ぶため、成年後見制度のパンフレットを各ユニットへ配布し職員の理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居への不安を相手の立場で考えるように接し傾聴、丁寧でわかりやすい説明を心掛けている。また、重要事項に関しては意向確認書にて二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時、電話連絡時などに要望や相談等を伺い対応している。また、月に1度「ふじの里だより」で入居者の家族へ笑顔の写真付おたよりを送っている。	利用者の隣に座って思いや要望を傾聴し、言葉の意味を深く追求することで真の思いをくみ取っている。帰宅願望のある方には、傾聴し寄り添った対応に努めている。家族とは面会や通院付き添いの機会に要望等を伺っており、外出や外泊に関するものが多い。面会は週末2日間実施している。外出・外泊については、事前にご家族様の意向を確認の上、感染対策を十分に行ったうえで実施している。お盆に外泊する方もいた。「ふじの里たより」に利用者の笑顔の写真を掲載して届け家族に好評である。	

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は、話しやすい職場環境づくりに勤めている。定期的に行うユニットミーティングだけでなく日頃から職員に声をかけ提案や意見を聞き反映させている。	人事考課を兼ねた管理者面談や定期的ユニットミーティングのほか、日常の介護の場面でも職員から意見等が出されている。備品の交換、設備の修繕のほか、日々の支援や排泄、入浴支援、同性介助などについても、職員の意見を反映した支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者・職員で話しやすい環境にあり垣根のない会話から、各自が向上心、やりがいを持って働いている。勤務変更についても円滑に行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の配慮と共に、介護支援専門員・認知症対応型サービス事業管理者研修の受講予定者がいる。職員全員が認知症介護基礎研修を終了している。また、ジョブメドレーアカデミーを受講し基礎を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は「江刺地域連携懇話会研修会」の参加で医療・介護の関係者との交流がある。また、代表者は他ホームでの講師をしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居内定した場合、本人様と面会し、ホームにてどのように生活したいか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親切かつ丁寧な説明を心掛けている。不安に思った場合いつでも相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からホームの入居に関して困っている事や、不安、要望、ご家族様との意向を伺い、質問に応じ納得して頂けるよう努めている。利用前であっても都度相談に応じられる事を説明している。		

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様との面会を通し、今一番困っている事、一番したい事を明確にして、どのサービスが一番良いか話し合いにて納得して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員と一緒に作品製作・洗濯物干し・洗濯物たたみなどを行ったり、利用者様の話を傾聴。相談や困り事への対応などをして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や毎月のお便りにて、本人の生活の様子や思いを伝え、ケアに関して相談しながら気軽に話し合う事が出来るよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご兄弟様との面会やご自宅への外泊。ご家族様対応での病院受診。ご本人がご家族様へ電話をかけるなどで関係が途切れないよう、支援に努めている。敬老会にはご家族様にメッセージを書いて頂きご本人へプレゼントした。	家族による外出や外泊、書道教室仲間との交流、併設するデイサービス利用の友人との交流を支援し、家族友人知人との関係が途切れないよう努めている。敬老会では、家族からのメッセージが利用者に届いている。事業所には訪問理容が2か月に1回2日間に分けて来所し、新しい馴染みとなっている。地域の高齢者との交流の一環として、豆まき、クリスマス会等の行事を併設デイサービスと合同で実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で隣席に座ってもらったり、おやつを食べたり、リクリエーションなどを通じて全員で楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際も、ご家族様、介護支援専門員と管理者にて、今後について話し合いを行い、いつでも相談に応じられる事を説明している。		

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の隣に職員が座り会話し、思いや意向を傾聴し把握している。意志疎通が困難な利用者様には簡単な質問で単語や表情で思いを把握するように努めている。	自分の言葉で意思を伝えることができる利用者は半数ほどおり、その言葉が意味する気持ちを考えながら思いを汲み取っている。言葉で伝えることが難しい方には、はい、いいえにより思いを確認したり、表情やしぐさ、行動により希望や意向の把握に努めている。様々な機会に過去の生活歴を本人や家族から聞き、認知症発症前の思いを日常生活に取り入れた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、ご自宅を訪問し、ご家族様より状況の傾聴、ご自宅での様子を実際に確認し現状を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録にて、バイタル・食事摂取量・レク・入浴を記録し、日々の経過記録を確認し、毎月のモニタリングをもとにカンファレンスをしてケアプラン化し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成は入居時には1か月、以降は居室担当者が1か月間のモニタリングを行い、ケアマネジャー・居室担当者・ユニット職員にてカンファレンスを行い3ヶ月毎に見直しをしている。主治医や看護師からの意見も取り入れた介護計画を作成している。	入居時はケアマネジャーが計画を立案し、1か月経過後に見直している。その後は居室担当がモニタリングを行い、カンファレンスは3か月毎にケアマネジャーと職員で行っている。目標と支援内容に整合性を持たせ、また、支援に関する情報は日誌でも共有して利用者の思いや希望を生活に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録・業務日誌・経過記録を元にモニタリングをし、実施記録にて職員間で情報共有しながら実績・介護計画を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者様に合せたケアに必要な事項や福祉用具の検討を常にしている。		

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に作品での参加・地域で行われる花火大会の鑑賞・お祭りの踊りの鑑賞等、楽しめる支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者様・ご家族様の医療に関するニーズを伺い、協力医療機関への変更は意向を踏まえて行っている。	事業所の協力医を利用している方が12人、以前からのかかりつけ医を利用している方が5人となっている。通院付き添いは基本的に家族対応で、通院時に情報提供書を持参してもらっている。訪問歯科は適宜利用し、入れ歯の調整などを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の服薬状況、体調など状況に応じ都度、協力医療機関へ報告し利用者様の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求めるとともに、退院時カンファレンスにて、スムーズにホームへ戻って来られるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び状況の変化がある場合、ご家族様に利用者様の終末期における意向を説明・確認している。最後までお願いしたいという強い希望がある場合には、協力医療機関の協力を得ながら対応する。重度化した場合、ホームでの個浴の入浴が困難になった方には、その方に合った施設への転居の話しをしている。	入居時に終末期の支援についての意向を聞き取っている。全身状態の悪化した場合、協力医の診断に基づき、速やかにご家族様・職員・医師でカンファレンスを実施し、終末期支援を施設で行うことに3者が合意できた場合、終末期の支援を行う。当ホームの終末期支援は、ご家族様と共同で行うことを前提としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにのっとり、変化が見られた場合は社長及び管理者へ連絡し指示を仰いでいる。緊急性がある場合は、救急へ連絡することとしている。		

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練と夜間訓練の年2回の火災避難訓練を実施している。地域の消防団員・運営推進委員にも訓練に参加いただき地域住民の協力体制を築いている。	事業所はハザードマップ上での区域指定はない。避難訓練は消防署や地域の消防団の協力のもと、年2回実施している。職員は5分～10分で7人が駆けつけできる地域に居住している。事業所は地域の福祉避難所にも指定されているが、事業所被災の場合は5キロメートル先にある本社への避難が可能である。訓練の一環として、車いす利用者の避難をロールプレイにより疑似体験している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方には耳元で話す。利用者様にはさん付けしている。居室のおむつ交換時・トイレ時は他者の目に入らないよう配慮する。妄想、幻視があった場合でも否定はしない。入浴拒否がある場合は日や時間、入浴方法を変えて入浴できるよう対応する。	事業所として一人一人の気持ちを考えた支援を実践するため、同性介助を希望する方の意向を汲み取り、排泄支援の際にはプライバシー確保を徹底し、また、呼称は「さん付け」としている。個人情報情報は職員以外の立ち入りが出来ない各ユニットの鍵付きの部屋に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を日常会話の中から引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に声がけにて確認し、本人の自発性を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時、どの服を着ていくか相談しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間行事の中で、季節の行事食を利用者の要望を取り入れた内容で提供することもあり、食事の準備・片付けなども職員と一緒に楽しんで行っている。日常でも食事の準備や片付けは一緒にしている。	栄養士による食事の管理を行っている。毎食とも職員が食材から手作りし、季節の行事食や誕生日の手作りケーキを提供している。利用者は、職員と一緒にテーブル拭き、コップ運び、玉ねぎの皮むき、干し柿づくりなどを行い、羊羹や蒸しパン・ゼリーなどのおやつのおトッピングも楽しんでいる。ひつまみ・もち・団子や季節料理は利用者にも好評である。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事のバランスを考えたメニューを提供し、実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。食形態に関しても、利用者様にあわせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを午睡前、就寝前に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき適切な時間に声かけしトイレ誘導を行っている。トイレへ行けない利用者様は時間で確認している。	ポータブルトイレの利用者はなく、全員がトイレを利用している。排泄チェック表を活用して必要な方にはトイレ誘導を行い、夜間のトイレへの移動で転倒の危険のある方には、センサーマットを活用した見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションを通して適度な運動量と水分補給を促し摂取する支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設内のデイサービスの浴室は温泉を使った湯なので、温泉の湯を希望すれば入浴して頂く。また、冬至にはゆずを浴槽に入れゆず湯を楽しんで頂いている。普段は午前中が入浴時間となっているが、希望があれば就寝前の入浴もできる。	入浴は毎日午前中、利用者は週2、3回入浴している。金ヶ崎町の千貫石温泉からお湯を運んできており、季節に応じて柚子湯も提供し利用者にも好評である。日中の入浴を基本としているが、希望に応じ夕方や就寝前でも入浴出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の落ち着く場所にベッドを置いて休んで頂いている。本人の状況等を配慮しながら、過ごしやすい環境になるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等を個人チャートに綴り、職員が確認している。与薬に関しては確認表を作成し誤薬の無いように務めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	起床時ユニットのカーテンを開ける。洗濯物を畳む。好きな踊りを披露する。気候の良い時はドライブで季節を感じる。職員と作品を作る。女性の入居者様で女子会をする。お楽しみおやつなど、楽しめるレクリエーションで気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春はお花見や新緑ドライブ、つつじ狩り。秋は紅葉ドライブ、天気の良い日のドライブは気分転換を図れるよう入居者様に聞きながら柔軟に対応するよう努めている。また、お墓参りや病院受診などご家族様と外出できる支援をしている。	事業所の周辺を散歩したりミニドライブにも出かけているほか、庭に出て花を植えたり、畑での野菜の栽培や収穫、草取りを楽しんでいる。受診の付き添いに併せて家族と食事をしたり、一緒にお墓参りに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則入居者様の金銭所持はなく、ホームで預かり金として管理している。預かり金からホーム内の自動販売機でジュースを選んで購入する方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は床暖房、エアコン、空気清浄機を完備し心地よく過ごせるようになっている。ホールの壁には月ごとに入居者様の作品や季節の花を飾り季節感を感じられるよう努めている。	天井が高く開放感のあるホールには、床暖房、エアコン、空気清浄機、空調が完備し、壁には利用者と職員と一緒に制作した季節ごとの飾り付けが施されている。テレビとテーブル、イスが配置され、利用者は思い思いの場所で過ごしている。廊下は広く、車椅子ですれ違っても余裕がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は、趣味が合う同士や、なじみの入居者様同士で楽しく過ごせるよう配慮している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	使い慣れた家具・日用品・思い出の品など持ち 込み可能にしている。	居室にはベッド、棚、クローゼット、洗面台が備え 付けられてある。自宅から使い慣れたものを持 参してその人なりの落ち着いた居室としている。 テレビや椅子、仏壇、携帯電話を持ち込んでいる方 もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境つ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に名前等の表示をすることで迷わな いよう配慮している。		